

# 青森県総合社会教育センター運営協議会（令和4年度第1回） 議事録（要旨）

## 1 日 時

令和4年6月29日（水曜日） 13時30分～15時30分

## 2 場 所

青森県総合社会教育センター4階 第2教材開発室

## 3 議 題

(1) 令和4年度事業計画について

(2) 主な事業の取組内容について

- ① パワフルAOMORI！創造塾
- ② 大学生とカタル！キャリア形成サポート事業
- ③ あおもり家庭教育力向上事業
- ④ ボランティア関係機関職員研修講座
- ⑤ あおもり県民カレッジ運営事業

(3) その他

## 4 出席者

〔委 員〕（敬称略）

小山田委員、秋田委員、菊地委員、高橋委員、阿部委員、奥崎委員、渡辺委員、小関委員、田中委員

〔県総合社会教育センター〕

赤尾所長、松谷副所長、葛西総務課長、副田育成研修課長、佐藤教育活動支援課長、大平総務課副課長、佐藤育成研修課副課長、阿部教育活動支援課副課長

〔豊かな学びを育む青い森グループ（指定管理者）〕

黒滝事務局長、八木澤事務局職員

## 5 議事録

※議事に先立ち、所長より挨拶があった。

※その後、議長及び副議長の選任を行い、議長に秋田委員、副議長に阿部委員を選任した。

《案件(1)、(2)について》

※事務局より①、②の事業について説明

### 【委員】

平内町からは「パワフルAOMORI創造塾」に参加していないが、コミュニティを活性化させるためには人財育成が大事である。

「大学生とカタル！キャリア形成サポート事業」の令和4年度の参加中学校が少ないが毎年このような状況か。

### 【事務局】

中学校企画はパイロット的に3、4年前に始まった取組であり、借り上げバス代も県で負担している。県内6地区を1地区1校で実施しており、今年で5つめの地域になる。来年度6つめの地域で一巡したら、高校と同じように広げていく予定である。

**【委員】**

平内町に中学校は3校あるが、令和5年4月から1校に統合する。統合した時点で「大学生とカタル！キャリア形成サポート事業」の参加を検討したいと考えている。バス代についても、現在スクールバスの委託経費がかかっているが、前向きに検討したい。

**【委員】**

「パワフルAOMORI！創造塾」の塾生が生涯学習フェアの手伝いをしているということであった。また、社会教育センター内の子ども会育成連合会も入居している団体連絡室に塾生の机があったが、今はなくなった。彼らが集まって憩える場所があるのか確認したい。

**【事務局】**

事情があって、物置となっていた状態であり、活動の場所ではなかったことから撤去させていただいた。塾生等はグループLINE等で連絡をとりあって、色々な地域活動や研修に参加しながら、交流の場所をその都度変えてつながっているようだ。

もし、社会教育センター内の研修室を使用するなら指定管理者に申し込み手続きをすることになる。

**【委員】**

LINE上で卒塾生の方々は基本的に連絡とりあっているということだが、塾生以外の方に新たに塾生に入るための情報や、卒塾生の方がどんな活動をしているのかということなどをどのように周知しているか。

**【事務局】**

卒塾生の活躍については、積極的に追跡調査は行っていない状況であるが、卒塾生を事業の事例発表や講師に迎える等のつながりはある。塾生の中で、LINEグループを作り、卒塾する時に塾生の代表が前の卒塾生との縦のつながりをつくり、その人が中心になって、そこから広がっているようだ。

**【委員】**

創造塾に参加した結果こういうことができるようになったとか、こういう力がついたということがもっと広まっていくと参加しやすい、参加しようと思うのではないか。

**【委員】**

「パワフルAOMORI！創造塾」を卒業してからのつながりについて、自分がかれこれ5年以上前に卒塾した。LINEなどもそれほど盛んではなかったが、SNSを通じてまだつながりのある方はいるが、その当時の状況と家庭環境や仕事の状況も変化してくるので、継続的に何か活動をしているとは言えない。もし、若い人たちが「パワフルAOMORI！創造塾」で何かイベントをやりたいという声があれば力を貸したいと思う人がいると思うので、連携していければいいのかなと思っている。

**【委員】**

「パワフルAOMORI！創造塾」の卒塾生の方々も地域に帰れば様々な地域の事情、

それぞれの生活形態があり、一概には言えないが今後とも私からも縦の関係について、その都度、状況を踏まえて社会教育センターでも目をかけておいていただければと思う。

## ※事務局より③、④の事業について説明

### 【委員】

あおもり家庭教育アドバイザーは、一覧表では150名となっているが、目標数値のようなものは掲げているか。

### 【事務局】

具体的な数値目標を掲げているわけではないが、毎年、各地区15名程の登録を目指していた。今年度は西北地区、上北地区で30名というようなペースで増やしていければ良いと考えている。

### 【委員】

各地区15名程は、ほしいということか。あおもり家庭教育アドバイザー一覧をみると市町村でまだ0名という所もあるが、こういったところを少なくとも15名にしていければ良いということか。

### 【事務局】

0名の所も増やす他、少ない所も積極的に声かけをして研修講座の方に参加者を送り出していただけようお願いしているところ。

### 【委員】

例えば青森市ではあおもり家庭教育アドバイザー39名の登録があるが、家庭教育アドバイザー同士の横のつながりはどのような形で行われているのか。

また、あおもり家庭教育スキルアップ講座について、もし受けなければ家庭教育アドバイザー登録が取消になるのか、メリット、デメリットについて伺いたい。

### 【事務局】

スキルアップ講座は学び直し。コロナ禍でオンライン化が一気に進んだので、自宅にいながら受講できるメリットがある。全県的に散らばっている家庭教育アドバイザーの方々の情報交換の場にできればと考えている。これを受講しなかったから不利益があるといったことはない。また、事情により家庭教育アドバイザー養成講座を6回受講できなかった場合、このスキルアップ講座を受講すれば単位としてカウントするなどの救済措置とする意味合も持たせている。

アドバイザーの横のつながりについては、個人情報ということもあるので、所在や連絡手段といった情報はアドバイザーへは周知していないが、当センターに連絡をいただければ、例えば同じ市町村に何名かいるがどういった方が教えてほしい等の要望があれば、当センターで調整して連絡がつくように進めていこうと検討している。

また、同じ年度に研修に関わった者同士で同じ市町村内でのつながりが生まれている。その他、家庭教育アドバイザー派遣に当たって、例えば、地域としての家庭教育力の向上を目指しているので、青森市で経験のある方で、今回この年度の登録であった方とその前の年度で登録のあった方というように、登録年度を超えた地域でのつながりを目的に2人、場合によっては3人派遣するといった形で地域全体のつながりを高めていくよう心掛けている。

**【委員】**

私は、講師の方が知っている方であったことをきっかけに、家庭教育アドバイザー養成講座に参加した。参加してみたら面白く、参加者の方々の子育てに関する考え方に共感し、皆さん積極的で「この仲間に入りたいな」と思った。その当時、社会教育センターの担当が支えてくれたこともあり、「楽しい、参加したい」と思えたことが継続したいとか、もっとやってみたいといった意欲につながったと思っている。

アドバイザー養成講座の対象は、家庭教育支援者を目指す人の他、子育てに関心がある人も対象となっているので、参加者の中にはお父さんもいた。女性の中に男性でやりにくいところもあるかもしれないが、男性目線の意見も聞くことができる。家庭教育に興味を持つきっかけは様々なので、こういう活動があること、こういう人を養成しているということを周知していくことが非常に大事なことだと改めて感じている。

家庭教育アドバイザー一覧表では多いところ、少ないところがあり、研修会場が通いづらい所であることや、参加者が保育士など色々な方がいたが、仕事をしながら通う難しさもあることから人数のばらつきがあるのではないかと。

**※事務局より⑤の事業について説明****【委員】**

ボランティア活動の場を提供するという取組の中で県民カレッジ事務補助とあるが、これはどのような規模、仕組みで行う事業か。

**【事務局】**

映画鑑賞会の時などの受付やありす内の業務を体験するといった事務補助をお願いしている。高校生が4名程登録しており、何回も来ていただいている。

**【委員】**

夏休み、冬休みの子どもイベントの中で子どもカレッジコースの普及啓発を図るとあるがどのような内容なのか。

また、昨年度の夏休み子どもイベントの参加状況を伺いたい。

**【事務局】**

昨年度の夏休み子どもイベントの参加人数は54名、今年度については大学生でマジックをやっている方のパフォーマンスの他、ワークショップを2種類のうちから選択して体験していただく、また、一緒に参加した小さいお子さんのため、読み聞かせコーナーを設ける予定である。

**《案件(3)について》****【委員】**

「大学生とカタル！キャリア形成サポート事業」について、高校生を対象に大学生がワークショップを行っているが中学生を対象にして行うことは考えていないか。

**【事務局】**

中学生の企画を始めた頃に中学生対応研修というのを実施しており、内容は中学生に

合わせた対応や注意点を学ぶものである。

中学校企画は、まだパイロット的な事業で、毎年1校で実施している。来年までは1校ずつ、県内6地区を1校ずつ一巡しその後どのようにするのか決めていくこととなる。

#### 【委員】

もともと高校生を対象とした事業なので、パイロット的に県内6地区を1地区1校で中学校を回している。中学校で実施してみた結果として、中学生対応研修の在り方やその他様々なノウハウというのはかなり蓄積されてきているものなのか。

#### 【事務局】

コロナ禍で実施できなかった中学校もあるが、中学生を対象とすることで、大学生がいろいろ勉強しており、センターとしてもノウハウ等を蓄積し中学生対応方法を膨らませていく必要があると思っている。

#### 【委員】

家庭教育アドバイザーについて、平内町は3人となっているが家庭教育アドバイザー同士はお互いに知らないということか。

#### 【事務局】

個々の状況は把握していないが、受講年度が違えば、お互いに知らないという可能性はある。ただ、今後市町村の方からアドバイザーの派遣要請があれば同じ市町村の中にいるアドバイザーに声がけをして揃って行っていただくことにより、つながりができる可能性はある。

#### 【委員】

高校生、中学生を相手に大学生が関わっていく機会を持ちながら、大学生個人のスキルアップにつながると思う。その他、家庭教育関係、ボランティア関係の様々な取組を実施しており、青森市中央市民センターでは様々な講座や市民大学を行っているが取り入れられるような取組、参考になるようなものに取り組んでいきたいと思った。

#### 【委員】

若手農業のトップランナー塾の方取材したことがあるが、横のつながりが良かった。一人の方取材して、こういうことは誰に聞いたら良いのかとか、どんな元気な人がいるのか聞くと、次々つながって非常にスムーズに取材することができた。当時、事業を始めたばかりの頃かと思うが、メディアにも取り上げられる機会が多く非常に目立っていたので、そういう人たちを目指して農業を志したいという人たちが増えたのではないかと思う。

「パワフルAOMORI！創造塾」の卒塾生である委員もそうだと思うが、今やっている活動をメディアに取り上げていってそこに続けというような人達を見つけていく、手を上げてもらう、そういう仕組みをインターネットを利用して作っていくと良いのではないかと思った。

**【委員】**

平内町でも平内カレッジというのをやっているが、平日開催ということもあり参加者は、60代、70代の方が多い。運営する側として40代の方から参加していただく方法を考えている状況である。県民カレッジは20代などの参加者がいるか。また、内容によって年代にばらつきがあるのか。

**【事務局】**

子どもカレッジというコースもあり、保護者の方が学生になる場合がある。県民カレッジが始まった頃の学生となれば年配の方はいるが、40代、50代の方の参加となると難しい状況である。

※以上により議事終了